

消防・救助技術の高度化等検討会の進め方(案)

1 検討テーマ

NBC 災害に関する消防・救助活動のあり方

2 趣旨

近年の NBC 災害対応資機材の高性能化に伴う検知、除染、救助等の活動手法の進展や実災害での経験等を踏まえ、現行の NBC 災害に関するマニュアル（※）を見直すととともに、効果的な部隊運用、関係機関との連携のあり方等について、昨年度に引き続き、「消防・救助技術の高度化等検討会」にて検討を行う。

※ 「生物・化学テロ災害時における消防機関が行う活動マニュアル」、「原子力施設等における消防活動対策マニュアル」等

3 検討事項

下記のうち①、②及び③については、昨年度の検討を踏まえ深掘りし、より具体的かつ実践的なものにすることが必要。また、④及び⑤については、BC 災害を中心に今年度に検討。

- ① NBC 災害に関する消防活動及び安全管理のあり方
- ② 新しい NBC 災害対応資機材の効果的な活用方法
- ③ NBC 災害の態様別の部隊、車両及び資機材の運用方法
- ④ NBC 災害時の県内応援隊及び緊急消防援助隊の連携活動
- ⑤ NBC 災害時の警察、自衛隊等の関係機関との連携活動 等

4 検討方法

消防・救助技術の高度化等検討会の下、「救助技術の高度化等分科会」（救助分科会）及び「N 災害等に関する消防活動対策分科会」（N 災害等分科会）を設置し、資料 2 の構成員において検討を行う。

5 検討スケジュール

資料 3 - 2 「消防・救助技術の高度化等検討会スケジュール」のとおり。

6 海外調査

次の実態調査を実施し、調査結果を必要に応じ検討結果に反映する。

① 救助分科会

最近の事故事例について事前に資料収集を行い、実地調査対象地域（1カ国）・調査内容を確定する。

ア ベルギー

平成 25 年 5 月 4 日、貨物列車が脱線し積み荷の化学物質が爆発し炎上した。積み荷のアクリロニトリルという猛毒の化学物質が気化して拡散し、付近の住民約 500 人を避難させた。

イ 米国

平成 25 年 4 月 17 日、肥料工場において大規模爆発の発生に伴い、付近の集合住宅・学校・高齢者施設等が炎上・損壊し、消防職員を含む多数の死傷者が発生した。なお、同様の災害は過去にも発生している。

ウ 韓国

平成 24 年 9 月 27 日、フッ化水素酸を運搬するタンクローリー（20 トン）から工場の作業場へホースをつないでいた時の爆発に伴い、フッ化水素が漏洩し、消防職員及び付近住民が吐き気、胸の痛みなどを訴えた。また、危険な状況の中、消防職員は活動を継続した。

② N災害等分科会

I A E A 等の国際基準及び米・英・独等における R N 災害の消防活動要領について、文献調査を基本としつつ、実地調査（1カ国）も踏まえ整理する。（資料 6 別紙参照）